

# 第三者意見



## 五代 利矢子

評論家  
シチズン・オブ・ザ・イヤー選考委員会  
委員長

ここ数年、企業が不祥事によってステークホルダーの信頼を失うケースが相次ぎ、改めてCSR(企業の社会的責任)の重要性が喚起されております。CSRとは平たく言えば企業が社会から信頼されているかどうかを測る「ものさし」と言えるでしょう。

シチズングループはその名に因んで「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に掲げ、「ミクロの世界で培われた高精度の技術力」をコアに堅実なものづくりグループとしての実績を上げてきました。特集「事業」と「品質」ではグループ各社の事業内容や現在の取り組み状況をCSRの視点から具体的に報告していき説得力があり、全員参加型のCSRをめざす意気込みも伝わってきます。

時代と共に移り変わるCSRの定義や範囲ですが、最近では「ワークライフバランス」の重要性が目目され、男女を問わず従業員の働きやすい、風通しの良い職場が企業価値の向上、少子化対策、多様性の確保に貢献することが再認識されています。その点でも、育児・看護休職制度やプール休暇の2時間単位取得をはじめきめ細かな制度が機能しており、取得率の上昇もみられます。

環境面では、製品の高品質を保持しつつ、生産と製品の両面から環境負荷を如何に押さえ込むかを各段階で検討し、目標を数値化して見直しと修正を実施しており、適所に海外も含めた事例紹介もあって、その取り組みが確実にグループ間で機能していることが感じられました。

ただ、コンプライアンス、リスクマネジメント、顧客満足度、ダイバーシティ等々多様なCSR活動で、文章に記された内容がどれだけ実態を反映しているかという観点からみて、各部門における課題の「目標」と「達成結果」を一覧表などで見やすく提示すれば、より理解が進むのではないかと考えられます。その意味からもグループを横断した諸活動の経年比較などが報告書に盛り込まれるよう期待したいところです。



## 秋山 をね

株式会社インテグレックス  
代表取締役社長

CSR報告書は、活動の報告だけでなく、企業理念実現のための計画、実行、検証、改善と理念の再確認という一連の取り組み(PDCA)に対するコミットメントの発信ともいえます。そのような視点から意見を述べます。

### 1. 評価したい点

随所に、「『市民に愛され市民に貢献する』という企業理念のもと」という記述が見られ、事業活動すべてが企業理念に基づいていることが強調されています。また、全員参加での理念実現のために、体制整備、従業員の意識把握、教育研修と対話、風通しの良い風土づくり等、さまざまな取り組みを行っており、「人」を大切にしていることが伺えます。

環境経営でも、企業理念のもと、2025年、2010年を目指した長期ビジョン、計画を策定し、それを基に今年度の取り組みと評価を行い、次年度の目標につなげるというPDCAに沿った取り組みが報告されています。また、昨年報告された地下水汚染のその後の対応や、廃液漏洩事故といったマイナス情報もきちんと報告されており、評価できます。

### 2. 一層の努力や改善を求めたい点

環境関連を除くと、全体的にPD(計画、実行)の報告にとどまっており、CA(検証、改善)の報告につなげることが今後の課題といえます。昨年の報告書では、企業行動憲章に即した部門別実践目標の取り組み状況の表が掲載されましたが、今年はなくなってしまい残念です。

また、海外グループと一体となったCSRへの取り組みが益々重要になっている現在、売上げ、従業員数とも60%以上が海外というグローバル企業として、海外での課題や取り組みに関する情報をもっと欲しいところです。

### 3. 今後への期待

今後は、社会の持続性に貢献する事業活動が、企業の持続性、競争力にとって重要となります。「市民に愛され市民に貢献する」ため、気候変動といった世界の重要課題の解決に貢献する取り組みを展開されることを期待します。